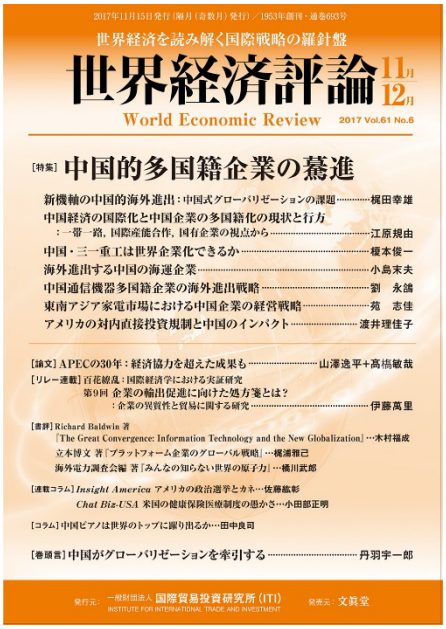
Back Number

本論文は

世界経済評論 2017 年11/12月号

(2017 年 11 月発行)

掲載の記事です


2017年11月15日発行（隔月（奇数月）発行）／1953年創刊・通巻653号

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤

世界経済評論 11月 12月

World Economic Review 2017 Vol.61 No.6

[特集] 中国的多国籍企業の驀進

新機軸の中国的海外進出：中国式グローバリゼーションの課題……梶田幸雄
中国経済の国際化と中国企業の多国籍化の現状と行方
：一帯一路，国際産能合作，国有企業の視点から……江原規由
中国・三一重工は世界企業化できるか……榎本俊一
海外進出する中国の海運企業……小島末夫
中国通信機器多国籍企業の海外進出戦略……劉　永鑄
東南アジア家電市場における中国企業の経営戦略……苑　志佳
アメリカの対内直接投資規制と中国のインパクト……渡井理佳子

[論文] APECの30年：経済協力を超えた成果も……山澤逸平＋髙橋敏哉
[リレー連載] 百花繚乱：国際経済学における実証研究
第9回 企業の輸出促進に向けた処方箋とは？
：企業の異質性と貿易に関する研究……伊藤萬里

[書評] Richard Baldwin 著
「The Great Convergence: Information Technology and the New Globalization」…木村福成
立本博文 著「プラットフォーム企業のグローバル戦略」…櫻澤雅己
海外電力調査会編 著「みんなの知らない世界の原子力」…横川武郎

[連載コラム] *Insight America* アメリカの政治選挙とカネ…佐藤嚴彰
Chat Biz-USA 米国の健康保険医療制度の思かさ…小田部正明

[コラム] 中国ピアノは世界のトップに躍り出るか…田中良司

[巻頭言] 中国がグローバリゼーションを牽引する……丹羽宇一郎

発行元：一般財団法人 国際貿易投資研究所（ITI） INSTITUTE FOR INTERNATIONAL TRADE AND INVESTMENT　発売元：文眞堂

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
1,320円×6冊＝7,920円 ▶ 6,600円 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読期間中 デジタル版バックナンバー 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

[24時間・年中無休]
0120-223-223

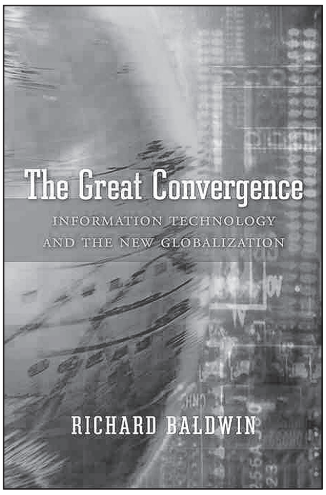
お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

The Great Convergence: Information Technology and the New Globalization

（『大収束：情報技術と新しいグローバリゼーション』）

慶應義塾大学経済学部教授
東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）
チーフエコノミスト
木村 福成



［著者］Baldwin, Richard.
［発行］Cambridge, MA: The Belknap Press of Harvard University Press, 2016
［判型］ハードカバー，344 ページ
［定価］3,500 円前後（$29.95）

本書は，昨年 11 月の出版以来，The Economist 誌の Best Books of the Year 2016，Financial Times の 2016 年 Best Books of 2016: Economics に選ばれるなど，世界中で大きな反響を呼んでいる本である。

ボールドウィンがかねてから提示していた第 1 のアンバンドリング（地理的分離），第 2 のアンバンドリングという概念は，1990 年あたりを境とするグローバル・ヴァリュー・チェーン（GVCs）の変質を見事にとらえたものであった。それに加え本書では，モノ，アイデア，ヒトという 3 つの要素の移動費用が技術革新によって順次軽減されていくという枠組みで，第 1，第 2，第 3 のアンバンドリングを再整理している。特に，1990 年頃から顕著に拡大した第 2 のアンバンドリングによって，先進国のアイデアと新興国の安価な労働力とが結びつき，南北間の相対的所得格差の大収束が起こったとの主張は，現代のグローバリゼーションを理解する上で極めて重要である。

これを精緻な経済理論と実証研究に落とし込んでいくにはまだ時間がかかるが，グローバリゼーションをとらえる 1 つの概念枠組みの提示という意味で，本書の持つ意義は大きい。

また，これを発展途上国の開発戦略に応用していくためには，いくつか補足しなければならないものがあるだろう。第 2 のアンバンドリングによるアイデアの移動を途上国が十分に利用するためには，単に国際的生産ネットワークに接続するにとどまらず，多国籍企業と地場系企業の間の技術移転・漏出の促進，効率的な産業集積の形成などが，必要となってくるはずである。また，賃金上昇によるアイデア流入の鈍化をどのように乗り越え，上位中所得経済から高所得経済へと移行するかについても，まだシナリオが描けていない。

第 3 のアンバンドリングについては，本書が主張するように telepresence，telerobotics などによる face-to-face コストの低下という方向に本当に進むのか，評者も十分納得していないが，本書が 1 つの重要な視座を与えていることは間違いない。また，グローバリゼーションおよび技術革新が，産業あるいは生産要素単位ではなく，個々の企業や個人が受け持つ職種・タスクごとに異なった影響を与えうるという指摘も，昨今の先進国内における格差の問題を考える上で重要である。

平易な英語で書かれており，Kindle 版も出ているので，研究者，大学院生にとどまらず，学部生向け参考書あるいは外書購読の教材としても役に立つだろう。　（きむら　ふくなり）